

研究分野	資源管理	部名	資源開発部
研究課題名	資源回復計画作成等推進事業（マダラ、ヒラメ、ウスメバル）		
予算区分	漁業調整費（強い水産業づくり交付金・国1/2）		
試験研究実施年度・研究期間	平成19年度～平成23年度		
担当	田澤 亮		
協力・分担関係	水産庁仙台漁業調整事務所、青森県水産振興課		

〈目的〉

我が国周辺水域において緊急に資源の回復が必要な魚種について、全国または地域レベルで資源回復のための計画を策定し、そのための取り組みについて総合的に支援するものである。

〈試験研究方法〉

資源回復計画作成に必要な資料を整理・作成し、勉強会や漁業者協議会での報告を行うとともに、関連調査を実施した。

1. 地先資源回復計画

(1) 青森県ヒラメ資源回復計画（対象漁協：階上漁協～尻屋漁協の刺網、八戸みなと漁協の小型底曳網）

- ・6月に尻屋漁協においてヒラメ標識放流調査を実施。
- ・6月及び12月に関根浜漁協においてヒラメ市場調査を実施
- ・8月に小型底曳網漁業者（船主・船頭）を対象に勉強会を開催。
- ・9月～11月に太平洋南部海域においてヒラメ釣獲試験を実施。
- ・3月に開催された青森県東部海区漁業調整委員会においてヒラメ資源回復計画が承認。

(2) 青森県ウスメバル資源回復計画（対象：岩屋～大間越の刺網、釣り、小型定置網（底建網含む））

- ・2月に開催された日本海地区漁業者協議会においてウスメバル資源動向等を報告。

2. 広域資源回復計画

(3) マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画（広域、対象：佐井～外ヶ浜の小型定置網（底建網含む）、太平洋の沖合底曳網）

- ・2月に開催された陸奥湾地区漁業者協議会において標識放流の実施状況を報告。

〈結果の概要・要約〉

関根浜漁協では、2007年1～6月には、全長42cmにモードを持ったヒラメ（2004年級）と、新たに漁獲加入した全長35～36cmのヒラメ（2005年級）が漁獲物の大半を占めており、7～12月にもこの2つの年級群が主に漁獲されていた。

三沢～南浜沖で実施したヒラメ釣獲試験では、例年最も多く漁獲される30cm前後のヒラメが極端に少なかった。1時間あたりの水深別釣獲尾数では、9月～10月に水深10mで多く釣獲

されていたが11月には少なくなり、10～11月には水深20～30mで増加する傾向が見られた。

〈主要成果の具体的なデータ〉

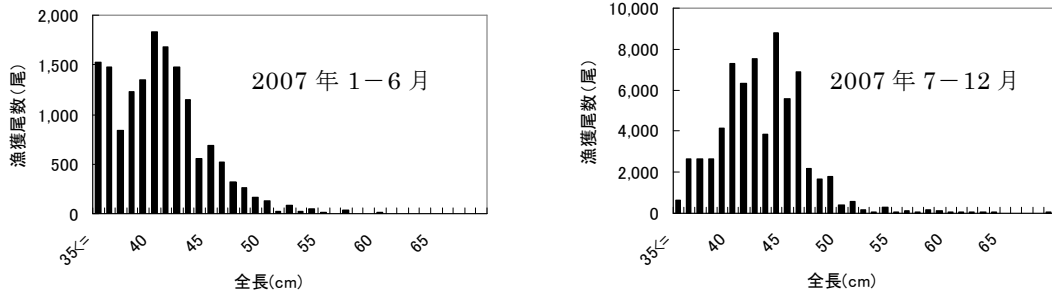


図1. 関根浜漁協におけるヒラメの全長組成 (左:1～6月、右7～12月)

釣獲時間(分)

	9月	10月	11月
水深10m	90	580	180
20m	80	210	210
30m	980	195	230
40m	0	30	240
合計	1150	1015	860

釣獲尾数(尾)

	9月	10月	11月
水深10m	11	84	9
20m	5	14	12
30m	92	27	16
40m	0	2	42
合計	108	127	79

1時間当たり釣獲尾数

	9月	10月	11月
水深10m	7.33	8.69	3.00
20m	3.75	4.00	3.43
30m	5.63	8.31	4.17
40m	-	4.00	10.50
合計	5.63	7.51	5.51

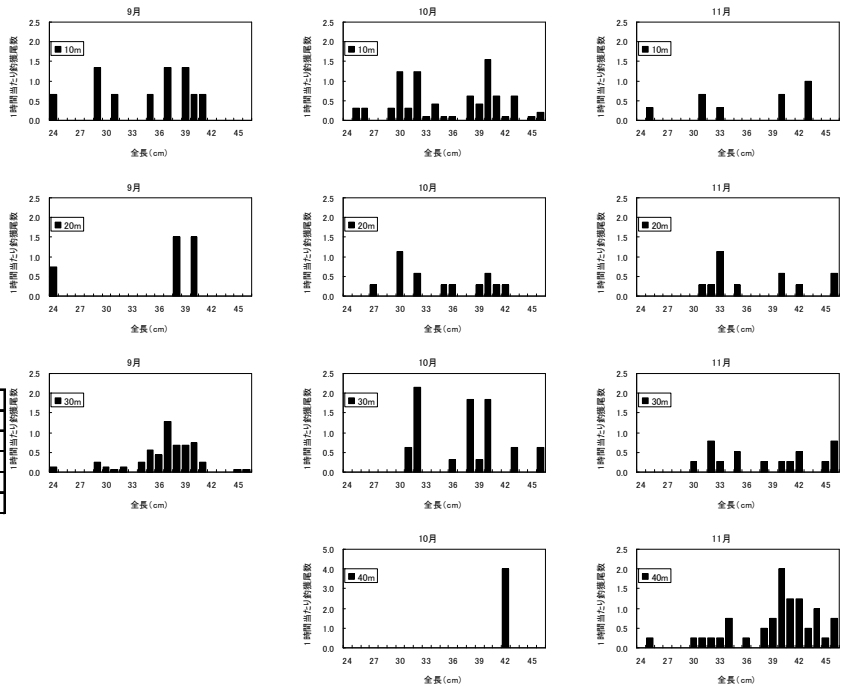


図2. 三沢沖におけるヒラメ釣獲試験結果 (2007年)

〈今後の問題点〉〈次年度の具体的な計画〉

計画対象魚種の資源状況についてモニタリングを継続する。

〈結果の発表・活用状況等〉

特になし